

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 年 月 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676100243
法人名	社会福祉法人真奉会
事業所名	グループホームあもり
所在地	鹿児島県霧島市隼人町内2075番地2 (電話) 0995-43-8700
自己評価作成日	令和8年2月4日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和8年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人は福祉事業を展開しており、同法人の障害者支援サービス事業所が隣接している。当事業所は霧島市の旧隼人町と旧溝辺町の境に近い場所にあり、遠くに霧島連山を仰ぐ景色の良い場所にある。また、鹿児島空港や嘉例川駅等の観光地・温泉地にもほど近い。事業所の理念として「ありのままのあなたを大切にします」と掲げており、利用者様が自分らしく、家庭的な雰囲気の中で穏やかに過ごせるように職員一人一人が意識して支援に取り組んでいます。

また、食事面に関しては野菜を作っている隣接した障害者施設から仕入れており施設イベントへの参加も行い、自施設の行事では地域のボランティアを募り交流を深めている。また、年2回法人・グループホームでの取り組みや様子を伝える広報誌を発行し、ご家族や地域の方々へ認知症高齢者グループホームとしての取り組みについて協力等や関わり方をお伝えしている。

地域との関わりについては、今までと同じように継続して交流を図る。外国籍の職員も在籍しており、行事の際は祖国伝統のダンスや歌を披露してもらい、国際交流の場にもなっている。また、自転車通勤の際に地域住民の方と挨拶を交わすことも出来ており、地域の方からお褒めの言葉を頂くこともある。

今後とも利用者様一人一人の思いに寄り添い、満足度、サービスの質の向上の為、外部研修の受講やホーム内勉強会を活用し、利用者様方、ご家族の満足度の向上に努めていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、自然豊かな霧島市隼人町内地区の一角に平成18年に開設している。同一敷地には同法人の障害者支援センターワークショップ隼人が併設されて法人本部を中心に日常的に情報の共有や協力体制を築いており、利用者も日常的に会話やレクリエーションなどの交流を楽しんでいる。溝辺地区と隼人地区を結ぶ幹線道路に接し周辺の畑地には一般住宅や工場等が点在しており、少し離れて鹿児島空港やコンビニ、飲食店、物産館、温泉等があり利便性も十分で、霧島連山も望めて四季を感じながら平穏に過ごせる環境である。現在、要介護1～5(平均介護度2.5)、75～97歳(平均年齢87歳)の17人の利用者が入所中で、個々の思いや心身の状態、自己決定等に配慮したケアを受けながら安心した日々を過ごしている。

管理者及び職員は理念に「ありのままのあなたを大切にします」を掲げ、利用者の誇りや尊厳を常に意識しながら、対話やケアに努め個々の特性やペースを尊重したその人らしい生きがいのある暮らしへの支援に努めている。日頃から利用者や家族の思いや要望等の把握に努め、出された要望等は迅速に協議して「可能な限り思いを叶えるケア」に取り組んでおり、本評価に伴うアンケートの結果からも家族との信頼関係が築かれている状況が窺える。

管理者および職員は忌憚なく意見を言い合える良好な人間関係に努めており、日頃の業務の中やミーティング、個別面談等で意見や要望を出し合い運営やサービスの改善に取り組んでいる。7人の特定技能実習生は、充実したサポート体制を受けながら文化や習慣等の相互理解に努めており、会話も支障はなく勤勉な態度で就労中で、利用者や地域の人からも信頼されている。

開設以来、地域との交流を大切に取り組んでおり、日常的に周辺の散歩時の会話や家族との面会(面会室で15分程度)、訪問理美容、ドライブによる季節の花見、ボランティア(そば作りやハーモニカ演奏他)の受け入れ、差し入れを頂くなど良好な関係を築いている。感染予防に努めながら家族との一時帰宅や外出、外食等も個別に支援しており、利用者はこれらの交流を楽しみにしている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所理念は「ありのままのあなたを大切にします。」と掲げており、入職時や人事考課の面談時に、理念に基づき支援にあたる事を確認している。	理念は玄関や事務所、リビングに掲示しパンフレットにも記載して周知を図り、利用者の人格や尊厳を尊重し、その人らしい平穏で生きがいのある日々が過ごせる支援に努めている。日頃のケアの中や申し送り、毎月のミーティング等で意義の確認やケアの振り返りを行って理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に参加される民生委員、社会福祉協議会のボランティア等を募り、施設行事に参加して頂いている。	自治会への加入はないが、運営推進会議や近隣居住の職員等から地域の情報を把握している。日頃の散歩時の挨拶や家族との面会（面会室で15分程度）、ドライブによる初詣や季節の花見、隣接のワークショップの利用者との会話やレクリエーション、ボランティア（そばうち、ハーモニカ演奏他）の受け入れ、差し入れを頂く等の交流に取り組んでいる。家族との外出や外食、一時帰宅も個別に支援しているが、ホームのイベント（敬老会やクリスマス他）は感染予防に配慮して家族や地域の人の参加は控えている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	令和7年度より運営推進会議も対面開催に戻しており、現在のあもりの状況等を共有している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和7年度より運営推進会議も対面開催に戻しており、頂いた意見を議事録におこし職員と共有し普段の支援に活かせるよう取り組んでいる。	会議は家族代表や民生委員（2人）、自治会長、居宅介護支援事業所「たんぼぼ」、有料老人ホーム、市担当職員等が出席して隔月毎に開催している。ホームの現況や行事、感染症予防対策、ヒヤリハット等を報告し、委員からは地域の情報やケアに関する質問、意見等が出されている。職員は内容を迅速に検討して運営やサービスの向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から電話連絡・文書での連携を図っている。また地域包括支援センター主催の研修参加、地域ケア会議を通じて交流を深めてきた。	市役所の担当者には窓口や電話、メール等で介護保険の手続きや各種制度及び感染症対応の相談や協議、生活保護受給者の処遇に関する調整等を担当ケースワーカーと行うなど日頃から密に連携を図っており、運営推進会議でもホームの状況の理解を得て協力関係を築いている。地域包括支援センターとの連携や市からの情報把握に務め、会合や研修等にも可能な限り出席して業務の改善に務めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月毎に開催し、普段の支援の中で身体拘束に該当していないか？等、職員間での認識の統一を図っている。	「身体拘束適正化のための指針」を整備し、委員会を年4回開催すると共に身体拘束や高齢者虐待の弊害、改善策等も取り入れた研修も年2回実施して認識を共有している。ミーティングでも随時ケアの振り返りや意見交換等を行って適切なケアに努め、年2回虐待防止チェックシートも無記名で実施して改善に繋げている。日常的にスピーチロックや拘束の無い利用者主体の自由な暮らしの支援に取り組んでおり、外出したがる様子を察知した際は園庭での散歩や対話等で気持ちの安定を図っている。人感センサーの活用は事前に家族とも協議し、プランに反映させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を3ヶ月毎に開催し、何が虐待に当たるのか等、考える機会を設けている。また法人の委員会の内容周知も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	どうしても介護知識の習得に目を向けがちになってしまっている部分もある。不随している制度にも意識を向け、把握に努めたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明を行っており質問等があれば都度対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	広報誌を発行したり、こまめにご家族とも連絡をとっている。質問などがあつた際も都度対応している。今年はSNSの活用を目指している。	重度化や難聴によりコミュニケーションが難しい利用者もいるが、思いや意見は日常の会話や表情、仕草、独自のサイン等で汲み取り、家族からは面会や電話、意見箱の設置、SNSの活用、「グループホームあもり」の送付で利用者の状況を写真やコメントで伝えながら意見を貰うように努めている。出された意見、要望、苦情等はミーティングで協議して可能な限り思いを叶えるケアに取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などを活用し、皆で方向性をきめたり、職員間のコミュニケーションを深める事を日々意識し、取り組んでいる。	管理者及び職員は忌憚なく意見を言い合える信頼と協力の関係に努めている。日頃の業務の中やミーティング時に意見や要望を気軽に出し合い、人事考課時の定期面接や随時の個人面談も実施して改善を図っている。管理者は日常的に業務への助言・指導に努め、休憩時間（現場を離れて60分）の確保や有給休暇の取得、資格取得へのバックアップ、急な勤務変更、個人的な事情等にも配慮して働きやすい環境となるように取り組んでいる。各種の休暇制度や研修受講時の経費の助成制度の体制も整備され、外国籍の職員も文化や習慣の理解に務めながら支障なく就労している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム内勉強会や、スキルアップ研修を活用し、各自スキルアップに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	評価制度として、人事考課制度を取り入れている。困りごとの解消や、要望、目標に向けてどのような取り組みをしていくか等確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	霧島市地域密着連合会に加盟。また他施設とも情報共有、交流を深め、よりよい施設づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本的に事前情報はあがるが、直接対面し、本人の不安の解消に努め、利用前の施設がある場合は丁寧に引継ぎを行う事を意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係機関との連携及びご家族の要望にも耳を傾け、随時可能な範囲で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは見学していただき、本人に合うか、馴染めるかを確認し希望があれば体験利用を行い本人の意思確認を大事にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者が一緒になって洗濯物を畳んだり、切り絵をしたり、できるだけ、できる事を一緒にに行い、できた事を互いに喜びあう良好な関係作りができています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会室にて家族との貴重な時間をもてるよう配慮している、また年2回の広報誌を発行し取り組みなどを伝えている。今後はSNS発信するための準備中。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日、面会などの訪問の際、ゆっくり過ごして頂けるよう雰囲気づくりを行い日頃の様子もお伝えしている。	利用者毎に入所前の人や場との関係性や職歴、社会的活動状況等を把握し、これまで築いてきた関係との継続を大切に支援している。家族や友人との面会や訪問理美容、他科受診、ドライブによる初詣でや季節の花見、家族との外出、外食等に取り組んでおり、外出時には馴染みの街並みや景色等も楽しんでいる。日常的に電話等で利用者の状況を伝え、電話、手紙の取り次ぎにも務めて関係継続に取り組んでいる。個人用のスマホを所持している利用者は日常的に家族との会話を楽しんでいる、海外居住の息子と週1回LINEで会話する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から様子観察を行い、入居者同士の関係性を確認している。トラブルのある方とはテーブルでの席を配慮したり意思疎通困難な方には寄り添い安心感が持てるよう個別ケアに取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実態としては事案がないが、本人、ご家族より連絡、相談がある際は随時対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前情報やアセスメントシートでは確認できない部分もある為、入所前に面会に行ったりご家族に確認を行っている。	重度化によりコミュニケーションが取りづらい利用者もいるが、日頃の会話や仕草、独自のサイン等で個々の思いの汲み取りに努め、家族の意向も確認しながら、その人らしい安全で生きがいのある暮らしへの支援に取り組んでいる。利用者が楽しみとする趣味（ぬり絵、菜園の植物を見る、テレビや音楽の視聴他）や家事（テーブル拭き、食器洗い、洗濯物たたみ他）の取り組みも体調や残存機能に配慮しながら個別に支援し、これらの成果には評価や感謝の言葉を添えて自己肯定感の修得を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの自宅での生活、環境を把握し、利用者様が暮らしやすい環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLを落とさない為にも、1日の過ごし方や既往歴、介助が必要な部分とそうでない部分を見極め、サービス提供に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議では家族からも意見、意向を確認し、ケア会議ではその情報をもとに支援の統一を図っている。	利用者・家族の思いを把握し、主治医や薬剤師の指示や助言、モニタリング・カンファレンス時の職員の意見、日頃の記録等を基にケアの方法や楽しみ事にも配慮した利用者主体の計画を作成している。ケアの実施状況は申し送りや業務日誌、各種のチェック表等で共有し、心身の状態の変化時には計画を実態に沿って修正しており、計画の内容はその都度、家族にも説明している	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中と夜間は電磁記録で個別に詳細な記録を残し、日誌にも全体をおおまかに記載している。連絡ノート等も作成し、ご家族の訪問日時なども職員間で共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のペースに合わせ支援を行う事を1番に考え、状況に合わせて柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方との交流や、隣接している障害者施設の利用者との交流、保育園の子供たちが敬老の日に出し物をしてくれたり、交流に力をいれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後は基本的に協力医療機関がかかりつけ医となり、月2回の往診と薬剤指導を受け、他の医療機関受診の際は、ご家族の協力を得ている。	利用者毎に病歴等を把握し本人・家族が希望する医療機関での治療を支援している。現在は全員が協力医療機関を主治医としており、定期的な訪問診療（月2回）が実施され、他科受診（皮膚科、精神科）も家族と連携して適切な医療を受けており、必要に応じて歯科も訪問で取り組んでいる。看護師の資格を有する職員（3人）が中心となって日頃から衛生や健康管理に努め、協力医療機関とは24時間医療連携体制も築かれて、利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定を行う事で、健康管理を行っている。体調の変化や、表情なども確認し、何かあれば協力医療機関へ情報共有行ったり協力医療機関とも密に連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	上記の部分と重なるが、日々健康管理を行う中で、変化があった際など情報共有している。また入院期間中も連絡を取り合い、ご家族にも情報共有し、何かあれば都度対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合及び看取りにおける指針を説明している。また看取りも含め、事前意思確認書でご家族の意向を確認している。現在看取りの事案はないが今後、看取りの受け入れ体制を整え、ご家族の希望にそった支援に取り組んでいきたい。	「重度化した場合及び看取りにおける指針」を整備し入所時や病状の変化に応じて本人や家族に説明して理解を得ており意思確認書で意向も確認している。重度化した時点で家族の意向を再確認し、可能な限り利用者や家族の意向に沿ってチーム体制でのケアに取り組んでおり、これまでも看取りを実施している。看取りや急変時対応の研修を計画している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるようマニュアルを準備しているが特定技能実習生も多く入職しており、理解を深める為、実践など主とした研修会を開催する予定である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体でBCP訓練、研修を実施している。備蓄品の補充、管理等を行っている。当施設では防火訓練を実施予定。地域の方からも協力得られるよう今後合同訓練を実施していきたい。	年2回（2回共消防署立ち合い）夜間発生も想定した火災や風水害発生時の訓練を地域住民の参加も得て実施し、避難や通報、消火器等の取扱いも研修している。スプリンクラーや自動通報装置等が設置され、消防設備の定期点検も実施している。BCPに基づき職員の研修（自然災害、感染対応を各1回）や自主訓練を実施し、災害発生時の飲料水や食品、介護用品等を3日分備蓄している。災害時の食料や飲料水、介護用品等は3日以上を備え、法人本部でも備蓄している。隣接の障害者施設が地域の避難場所になっており、ホームも5人の避難者を受け入れる体制である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングやホーム勉強会での内容として利用者に対しての言葉遣い含め尊厳をもった対応をするよう学んでいる。	人格の尊重や個人情報の取扱い、守秘義務等については、「ホーム勉強会」やミーティング時に研修を実施して認識を共有しており、利用者の思いや習慣、特性を大切にしたい対応に努めている。居室への入室時は声掛けやノックを励行し衣服の選択や余暇時間の過ごし方等も自己決定に配慮しており、情報紙への掲載については入所時に意向を確認している。居室の氏名表示は行っていない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな活動、趣味を引き出し個別にケアを提供できるようコミュニケーションを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃のコミュニケーションや家族からの生い立ち、生活歴を聞き取り、当施設でも住み慣れた自宅での生活再現に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に応じた洋服を御家族へ依頼したり希望があれば3か月に1回の訪問理容を利用できる体制となっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を調達しバリエーションを意識し寿司やBBQ等も行事などを利用し提供を心掛けている。	利用者の嗜好や形態、新鮮な食材、季節感、代替品等に配慮し菜園の野菜も活用して調理しており調理担当職員もいる。お節や節句、敬老会、クリスマス等の行事食や手作りのおやつ、調理レクでのホットケーキ作り、園庭でのバーベキューやソーメン流し、屋台の来訪でのラーメン、そば打ちや干し柿作り等、楽しみとなるよう工夫し、利用者も食材の下処理やテーブル拭き等を行っている。利用者毎に食事や水分の摂取状況を把握している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量の記録を行い、多め、少な目の要望に対応している。（認知症からくる感覚の誤認もあるため、先入観だけで判断しない）		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、介助を行っている。必要な方は訪問歯科診療を定期的に受け、歯科衛生士からの助言を受け、職員間で周知している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿、便意を伝えるにくい入居者は表情や行動のサインを読み取り、適切なタイミングでトイレ誘導しトイレでの排泄が続けられるようにしている。	利用者毎の排泄パターンや残存機能、習慣等に配慮しながら可能な限りトイレでの排泄を支援している。布パンやリハビリパンツ、バット、常時オムツの使用等、利用者の意向も確認しながら状態に配慮した介護用品やケアの方法に取り組んでいる。便秘の予防に食材や水分摂取、運動、腹部マッサージ等に配慮して自然排便に努めているが、主治医の指導でほぼ全員が緩下剤で調整している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の排便状況を確認している。便秘解消のために排泄を促す食べ物や水分の促し、腹部マッサージなどのケアを行っている。頑固な便秘の入居者には主治医からの指示で下剤でコントロールしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとりのタイミングに合わせて週2回入浴を行っている。必要に応じて足浴、手浴を行ったり全介助の入居者には二人介助で行い清潔保持だけでなく安全面にも配慮している。	週2回個浴で午前中入浴を基本としており、必要に応じてシャワー浴や清拭でも保清している。入浴の日時や順番、温度、好みのシャンプー、同性介助等は利用者の意向に沿って柔軟に対応し2人介助も行いながらゆっくり楽しめるように配慮している。入浴後は水分補給や皮膚疾患の軟膏塗布を支援しており、入浴をためらう利用者も日時の変更や声掛け等の工夫で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように、本人の生活スタイルに合わせ、昼寝の時間をもうけたり活動に参加するなどメリハリをつけ安眠に繋げられるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の服薬セットは看護職員が行い、服薬の際は職員二人以上で名前、日付を確認している。また主治医の指示により居宅療養管理指導薬剤師が1ヶ月2回訪問し服薬管理、指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭への散歩などの外気浴、花の鑑賞など行い、気分転換している。一人ひとりの趣味や好きな事を情報収集し活動提供の材料としている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コスモスや菜の花ドライブなど季節を感じる体験ができるよう計画している。また隣接している福祉施設との交流を図るため、合同の外出やレクリエーションを行っている。	毎月の外出や行事の取り組みは年間計画を作成し、天候や体調、市中の感染症の状況に配慮しながら取り組んでいる。日常的に園庭や周辺の散歩を実施し、鹿児島神宮や霧島神宮への初詣やドライブによる季節の花見、他科受診、「ワークショップはやと」の利用者との外出やレクリエーション等の外出を実施し、家族との外出や外食等も個別の支援に努めている。ホーム内でも季節に応じた行事の実施や作品作り、昔の映像や音楽の視聴等でリフレッシュしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方が多く金銭管理は家族にて対応。遠方の家族で社会福祉協議会にて金銭管理を依頼しているケースがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方からの家族の電話を取り次ぐ事がある。利用者自ら電話を依頼される事はない		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員中心に入居者に手伝いもらい季節ごとの壁画作成をし、季節感を取り入れた温かい雰囲気づくりに配慮している。共有の空間についても、安全性、快適性を基本とした動線を確保出来るよう配慮している。	園庭には多種の樹木や季節の草花が植えられ周辺の畑地の作物も眺められて、利用者は日常的に季節感を楽しめる環境である。建物はバリアフリーやプライバシーに配慮した構造で余裕あるスペースが確保されており、利用者が昼間の殆ど時間を過ごすリビングにはウッドデッキや和室も設けてあり、テーブルセットやテレビ、空気清浄機等が利用者の動線や利便性、利用者間の人間関係等にも配慮して備えてある。活花や利用者の作品等を展示し清掃や空調、感染予防の手指消毒剤の設置等、快適で和やかな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が居心地よく過ごせるようにソファの位置や気のあう入居者と一緒に座って過ごせるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の愛用していた物や家族との思い出の写真、ぬいぐるみなど、住み慣れた自宅を再現できるような居室環境を提供している。	フローリングに腰高窓の居室は明るく余裕あるスペースが確保されており、エアコン、ベッド、収納棚が備えられている。利用者は愛用していた寝具やテレビ、家族写真、小物等を持ち込み、自身の作品や誕生日・長寿祝い等で頂いた品物も飾って、その人らしい憩える居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共有部分は、障害物がないよう安全な動線を確保し自立した歩行や車椅子自走できるように環境整備に努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない